社会

児　童　札幌市立緑丘小学校

６年１組　男子２１名　女子１７名　計　３８名

指導者　佐野　浩志

１．単元名　　**身近な政治と暮らし～札幌市の除雪は世界一？！**

２．満足感を味わう学習にむけて

今の子供のとらえ

緑丘の子供たちが住んでいる地域には、マンションが多く、実際に自宅の雪かきを手伝ったことがないという子も多い。６年１組では、除雪を「よくする１３人」「時々する　８人」「ほとんどしない４人」「全くしない１３人」という状況である。

また、学習前には、「普段の除雪に対して不快に思ったことがある」という子が２４人。理由は「夜間の除雪の騒音」「歩道除雪」「間口前に雪を残される」「排雪がされないため幅員が狭くなる」といった具合に、市に寄せられる要望とほぼ同じである。家庭での会話の中にも除雪に対する高い関心が見て取れるのではないだろうか。

単元のねらい

本単元では、「国民生活の安定と向上を図るために地方公共団体や、国の政治の働きが反映していることを具体的な事例を調べる活動を通して考えることが出来るようにする」ことが大切である。具体的な事例として，「身近な公共施設の建設，地域の開発，災害復旧の取組の中から選択」とされている。今回は，雪災害を具体的事例として，世界的にも類を見ない積雪寒冷地の大都市の都市機能を守る行政の取組を自分たちの生活とのかかわりから学習する。

公民的な資質を育てるといった社会科の大きな目標も見据えながら取り組むことの出来る単元になればと考えている。

単元の主張

世界的に見ても、年間平均５ｍもの累積積雪がありながら１８０万人もの人口がある都市はない。除雪のシステムは当然世界中の他に類を見ないものとなっている。しかしながら、そこに住んでいる住民（札幌市民）の市政に対する要望の中で２６年間ダントツにトップを維持しているのもまた、除雪に対する要望なのである。

除雪、雪問題についていえば、一つの問題を解決しようとすれば、ほかで問題が起きるといった「ジレンマ」的な要素も抱えている。社会教育なくしてはこの「ジレンマ」からはなかなか抜け出せないといった研究提言も出されているほどである。

また、学級の子供たちはマンションなど集合住宅に住んでいる子も多く、除雪は誰かがやってくれているという意識は子供の中にはある。しかし、それがどのように政治と結びついて、自分たちの生活を支えているかということについて目を向けている子は少ない。

だからこそ、子供たちが札幌市の除雪について調べ、それについて考えることを通して、除雪の問題を身近な問題として考え、それぞれの生活に生かしていくきっかけとなるように、この単元で除雪を取り上げたのである。この単元を通して自分たちの身近な社会事象と政治の結びつきを考え、さらに自分事としてとらえる中で学びを生活に生かすことの出来るような学習になればと考えている。

満足感

調べ，考えることから除雪の問題を自分事としてとらえられること。

３．研究の視点

視点１　自ら学び進める教材化

本物を求め、本物にひたることが出来る教材化

○調べ学習や，体験を足がかりにして考えることができる。
具体的な事例（平成８年１月９日「冬台風」による都市機能麻痺）を通した意欲の喚起
実際に除雪をしている人の工夫や苦労を実感し追求を深める

○外部の専門家との連携
除雪の学習は除雪のプロとつくる
単なるゲストティーチャーに終わらず単元の構成から一緒に
・北海道開発技術センター企画部長　　原　文宏氏
・札幌市雪対策室　　計画担当係長　品田　英利氏
　　調査担当係長　奥原　裕幸氏
・札幌市中央区土木部　　維持管理課長　飯田　稔氏
　　維持管理課　　吉元雄次氏　古源靖則氏
・中央区西部地区除雪センター　センター長　神谷健治氏

生活とのかかわりから問題が生まれ、新たな見方・考え方から生活に戻ることができるような教材化

○子供たちの多様な考えをもとに，自分の生活を見つめ直すことが出来るような教材化
「市→事業者→市民」の流れから，札幌市の雪対策・事業者の取り組み，苦労，工夫を調べ，それらの財産をもとにわかり直したり，関係付けたりしながら，自分の生活を見つめ直し、さらに，学びの広がりが連続していくことが出来るような教材化。

○学びをもとに新たな見方や考え方へ
学習をもとに生活に戻り，新たな活動に広がることのできる学習の構成

視点２　よさが浮き彫りになり、見方・感じ方・考え方が高まる場づくり

調査活動で培われた見方や考え方が揺さぶられ、社会的事象が吟味される場の設定

○既習とのズレから新たな問題意識を
「札幌市の雪対策は世界一だ」という既習をもとにした認識に「市政への要望がＮＯ１！」「しかも２６年間ずっと第一位である」という事象をぶつけることで子どもの見方・考え方とのズレを生み，新たな問題意識を醸成する場の設定をする。

○既習を基に交流する中から自分事としてとらえられる場の設定
既習をもとにした自分の考えの交流から，「市のシステムや，市の対応だけに文句を言っていてもこの問題は解決しないのではないか。」という気づきが生まれ，「自分たちで出来ることは？」という視点からも考えを深めていくことが出来るような場の設定をしていく。

表面的な価値ではない、実感のこもった社会的認識を

○子供を揺さぶる教師のかかわり
表面的な理解を揺さぶり，より自分事として考えを進められるような教師のかかわりを大切にしたい。

○単元の始めと終わりでの意識の差が実感できるふり返り
単元のはじめでとった意識調査を単元の最後に行う意識調査を比べることで，自分の除雪に対する意識の違いが実感できる。そのことで，自分たちの学びの足跡を実感できるようにしていきたい。

４．単元構成　８時間扱い（本時７／８）

時	子供の意識の流れと主な学習活動	評価規準を基にした子供の姿
1	平成８年１月９日１０日 大雪災害　新聞記事 年間累積積雪５Mに１８０万人 世界でも類を見ない豪雪地大都市 もし除雪が全然できなかったら？ 交通機関 バス・自動車 鉄道・輸送 救急 救急車消防車 輸血・手術 ゴミ 収集車入れない 札幌市の除雪は誰がどうやって？ 子どもたちと身近な政治の働きの中から札幌市の除雪に対する取り組みに着目させる。 市民の願いに応えようとしている札幌市の取組に目を向けさせる。	関　思　技　知 ○　　○ 札幌市の雪災害時の除雪について関心を持ち、調べようとする。 新聞記事から市民生活にどのような影響があるか読み取り
2 3 4	マルチゾーン　パートナーシップ　福祉除雪 S-net　融雪槽 すごいぞ 札幌市の除雪システム 流雪溝　計画除雪 融雪剤　CMA　市内〇箇所雪堆積場　ロードヒーティング 様々な仕組みで除雪が行われているんだ！！ すごい！！ 実際に除雪している神谷さんにも聞いてみよう 表現活動を通して札幌市の取組への共感的な理解につなげていく。 実際に除雪を行っている人の生の声を聞くことで，除雪に携わっている人々の工夫や苦労に目が向くことができるようにする。	○　　○ 札幌市の除雪のシステムについて、様々な方法から調べようとする。 札幌市の除雪のシステムについて様々な方法を使って調べ、効果的にまとめることができる。
5	データの予測がすごい！！ すごいぞ 除雪機のオペレーター 一人で１２㎞も除雪してすごい！ 担当区域のお年寄りの家をほとんど知っている！すごい！ 徹夜で除雪しても朝から緊急出動！すごい！！ 実際に除雪をしている人は大変な苦労をしながら除雪をしているんだね。	○　○ 実際に除雪に携わっている人々の苦労や工夫について考えることができる
6	道路除雪延長世界一　歩道除雪延長世界一　ロードヒーティング延長世界一 一自治体としての除雪予算世界一　融雪槽保有数世界一　排雪，堆積量世界一 札幌市の除雪は間違いなく世界一だね！！ 自分たちが調べてきたことと、具体的な数字を基にしたデータとを合わせながら、札幌市の除雪についてまとめる場の設定をする。	札幌市の除雪のシステムについて概略について理解している。
7 本時	しかし・・・ 札幌市に対する市政への要望は２６年間ずっと除雪がNO1 みんなに喜ばれる除雪になっていないのでは？ どのように解決したらよいのだろう。 市　市民 事象の提示から問題意識を高め、新しい活動の方向性を持たせる	○　◎ 除雪の問題は行政だけでなく、市民も一緒に取り組むことが必要であるということについて考えることができる。
8	除雪の問題は，札幌市だけでなく，市民（自分たち）でも出来ることを考えることが必要なんだね。 具体的に自分たちができることを考えていこう	

５．本時の学習について

「札幌市の除雪は世界一だ」という見方や考え方を持っていた子供たちに２６年間札幌市に対する苦情の中で除雪がいつも一位であるという社会的事象を提示する。そのことで，既習とのズレを生み「本当の世界 NO1 除雪にするために」という問題を考えていくなかで，既習を生かしながら多面的にとらえさせたい。

市民が協力することの必要性や，よりよい市民として学習を生活の場に生かしていくきっかけとなる学習にしたいと考える。ただ単に「市民は我慢すべきだ」という表面的なとらえに終わるのではなく，「してもらう除雪から自分たちでもする除雪へ」という意識へ変えていけるような学習になればと考えている

目標　市民の苦情や札幌市が行っている雪対策について，調べてきたことから多面的に考え，新たな価値を見い出し，「してもらう除雪からする除雪へ」の転換について考えることが出来る。

展開（７／８）

子供の意識の流れと主な学習活動	教師のかかわり
前時までに・・子供たちは，札幌市の除雪に対する取り組みの学習を通して「札幌市の除雪は世界１だ！！」という認識を持っている。	
３０ｍの高さの雪捨て場の写真 やっぱり世界１は間違いないね！！ 雪たんけん館 HP利用 	既習の想起が出来るような事象の提示をする。 〔雪たんけん館利用〕
札幌市の除雪に対する熱心な取り組みの結果 市民の除雪に対する苦情は・・・・・・	
市民からの要望ＮＯ１！！　しかも２６年間も…	札幌市の市民の要望リストの提示から，既習とのズレを生む。 〔雪たんけん館利用〕
世界一の除雪なのに　なぜ雪対策の要望がＮＯ１？ 雪たんけん館 HP利用 	
夜中に騒音がうるさい 玄関前に雪が残される 歩道の除雪がされていない つるつる路面がひどい	市政への要望ＮＯ１の理由を考えることで既習との矛盾を揺さぶり，学習問題を生む。
市民に喜ばれる除雪になっていないのでは？	
どのように解決したらよいのだろう？	
市 ・予算をもっと上げる ・もっと最新型の除雪機を ・昼間にもっと多くの台数で ・もっとていねいに除雪を ・作業員の技術をもっとＵＰ **もっと** こんなに予算をかけて，こんなにがんばっているのに？ **安全に・快適に** **市民** ・多少の騒音は我慢する ・歩道は除雪がしっかりしていなくても多少我慢する。 ・冬は交通に気をつける **もっと** 我慢するだけではなく，自分たちで出来ることについても	子供の多様な見方や考え方から，「計画する人」「除雪する人」「市民」という視点からの立場に位置づけていく。 板書を構造的に構成し，子供の多様な見方や考え方を束ねていく。
自分たちでできることも考えて行かなくては	本時の評価規準 除雪の問題は行政や事業者だけではなく市民も一緒に取り組むことが必要であると考えることが出来る
夜中の除雪の音 ↓ 我慢する 玄関前の雪 ↓ 自分たちで 歩道の除雪 ↓ 服装の工夫 つるつる路面 ↓ 砂まき	子供が市民の立場から考えていけるように焦点化する。 市民からの苦情の具体的な解決策を考えることで自らかかわる姿を生み出していきたい。
除雪の問題は，札幌市だけでなく，市民（自分たち）でも出来ることを考えることが必要なんだね。	
広く呼びかけることも必要だね ゴミを出す時間を守ることが大事だ 正面玄関の雪かきくらいは手伝えないかな 路上駐車への呼びかけも出来るかな	表面的な価値ではなく，実感のこもった社会的認識になるように，子供の考えを揺さぶっていく。